

北陸雪害対策技術センターの広報と情報提供

池伸明 阿部英明*1

1. はじめに

北陸地方整備局では、「38 豪雪」を契機に本格的な雪害対策に取組み、除雪延長の拡大、除雪機械の整備、除雪・降雪を考慮した道路の整備、スパイクタイヤ使用禁止に伴う路面凍結対策、および防雪施設整備（シェッド、消融雪等）等を推進してきた。

また、車社会、高齢化の進展、生活スタイルの変化に伴って冬期道路交通確保に対する道路利用者のニーズは高まり、かつ多様化している。さらに近年では、全国各地で異常な降雪等、立ち往生車両の発生による大規模な交通障害が起り、社会的に大きな影響を与えていることから降積雪期における防災体制の強化が求められている。

全国的に自然災害が頻発するなか、国土交通省では2013 年度より特定の災害（地震・津波、火山及び雪害）対策及び構造物の維持管理に関して、ハード・ソフトの両面から防災・減災対策を総合的かつ一体的に推進する取組みのひとつとして、「北陸雪害対策技術センター」(図-1)が設置された。

当センターでは特に、雪害対策に係る技術研究開発、技術に関する知見や記録の収集・保存・提供等を行うものとしており、取り組みの一つとして、道路利用者への情報提供と啓発のための広報活動を展開している。

広報活動は、道路利用者に対して冬期の道路交通の重要性や雪害対策を理解し、安全への心掛けを高めてもらうために実施しているものであり、近年は特定地域において、短時間の集中降雪により交通が混乱する事案もあり、道路情報の取得支援や、万全な装備を啓発する広報も必要とされている。

本論文では、その取り組みの概要について報告するものである。



図-1 北陸雪害対策技術センターの組織

2. 北陸雪害対策技術センターの広報・情報提供活動

北陸雪害対策技術センターでは、冬への備えに関する道路利用者への啓発、雪国暮らしの変遷の伝承、除雪作業の苦勞・社会貢献等を積極的に広報することにより、雪害対策に関する道路利用者の理解と協力の向上を図る取組みを行っている。以下に取組事例・効果について紹介する。

2.1 立ち往生車両防止・啓発ポスター

啓発ポスターは、道路利用者（ドライバー）向けに作成したもので、冬期に関するマナー向上を呼び掛けるため、2013年度より毎年作成している。

これは、タイヤチェーン等の不備で車両が進めず通行の妨げとなる事案が多発しているため、立ち往生車両の防止・抑制を目的とした啓発ポスターとした。内容は実際の立ち往生写真や、他の通行者への迷惑になることのフレーズを用いて冬用の装備を促す内容とし、全国（各地方整備局、地方公共団体、道の駅、サービスエリア等）への配布・掲示を行っている。(写真-1)

2.2 雪みち情報チラシ

北陸地整管内の各道路管理者の冬期道路情報、気象情報の提供サイトや、ラジオの道路情報提供の放送時間帯等、雪みち走行に役立つ情報をまとめたチラシ（写真-2）を作成し、イベント時などに配布し、道路利用者に対して事前に道路・気象情報を入手することの重要性を周知している。



写真-1 啓発ポスター



写真-2 雪みちチラシ

* 1 国土交通省 北陸地方整備局 北陸雪害対策技術センター（北陸技術事務所 雪害防災減災課）

2.3 情報パネル・冊子

雪国の暮らしの変遷伝承や、除雪工法・除雪機械の説明、除雪従事者の士気高揚等を目的としたパネル・冊子を作成し、雪や土木に関わるイベントおよび公共施設で展示する等の計画的な広報を実施している。(写真-3・4)

国道事務所では、例年総合学習および除雪出動式等で小学生を対象とした除雪基地や除雪機械の学習機会を設けていることから、子供向けの説明パネルも作成するなど工夫し取り組んでいる。



写真-3 イベント時の広報活動(平成 29 年度)



写真-4 広報パネルの例

2.4 雪害・除雪記録映像アーカイブ

北陸地整管内の雪害対策・除雪作業の取組みを広くPRすることを目的に、雪の渋滞状況や各種除雪機械の紹介映像など雪に関連するさまざまな映像をホームページにて公開している。(写真-5) また、「YouTube」にも北陸技術事務所の公式チャンネルを開設している。2018年10月現在で公開から4年1ヶ月となり、延べ100万回再生を超えている。



写真-5 雪害・除雪記録映像アーカイブ

る。冬期に再生数が伸びる傾向があり、冬期道路啓発に一定の関心を得ている事が分かる。

2.5 「おしえて！雪ナビ」(雪に関する総合情報サイト)

<http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/yukinavi/>

全国の地整等では各地域の道路状況や規制情報などをホームページや国道事務所のTwitter等により情報提供に取り組んでいる。北陸雪害対策技術センターでは、その全国の情報を集約したサイト「おしえて！雪ナビ」(図-1)を構築し、情報提供を行っている。北陸管内については2017年度にホームページを見直しており、道路利用者からニーズの高い道路のライブカメラについてより少ないページ遷移で確認できるようサイト構成の見直しを行ったところである。また本サイトでは他に除雪施工法や防雪施設などの雪に関する技術情報や各地方整備局などで作成された冬期道路啓発用ポスターやチラシ、雪害・除雪映像アーカイブ等も掲載しており、総合的な雪の情報を掲載したサイトとしている。



図-1 「おしえて！雪ナビ」トップページ

2.6 国道雪みち道路情報マップ

「国道雪みち道路情報マップ」(図-2)を「おしえて！雪ナビ」内のコンテンツとして2017年度より運用している。北陸地方整備局で管理している国道14路線について、北陸管内の起点から終点まで冬期道路利用者に必要な情報を一元的にまとめたサイトで、各路線に設置されているカメラ画像や各地点の気温・積雪深、大雪時に待避可能なチェーンベースや道の駅などについて路線を通じて確認することを可能とし、道路利用者が通る予定の路線の確認を容易にした。



図-2 国道雪みち道路情報マップ

2018年10月には1400人と約9倍に伸びており、情報拡散に更なる効果が期待される。

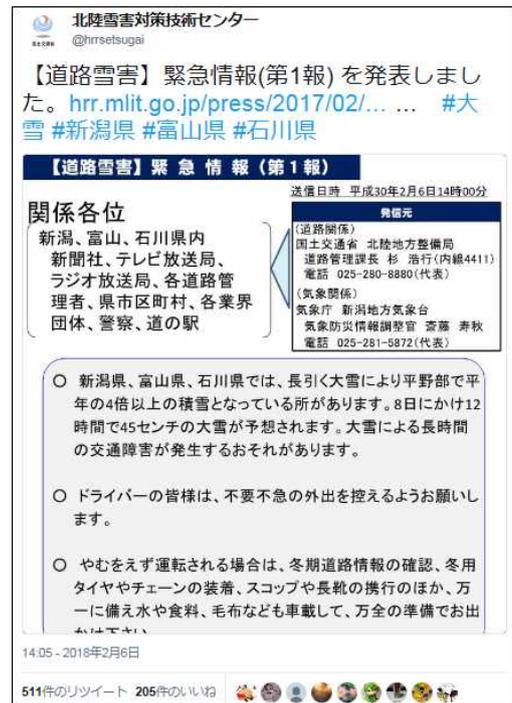


写真-5 Twitterによる道路情報発信

2.7 SNS (Twitter) を活用した道路情報提供

道路利用者に向けた新たな情報提供方策として、拡散効果の大きい「Twitter」による情報提供について北陸雪害対策技術センターでは2015年度より取り組んでいる。

Twitterは、ユーザー数が多く拡散力が高く、スマートフォンやタブレット等の媒体が普及している世の中で、リアルタイムで情報取得ができ、移動中でも情報確認が可能である。

情報発信では、ツイートの内容は、降雪期前に前述のホームページや掲載している技術資料などを紹介することで一般の方へ冬期道路への取組をPRしつつ、併せて車の冬装備を促す啓発ツイートを行った。大雪時には雪に関する気象情報や各機関の大雪に関する発表などをツイートし、また、全国の道路事務所が発信しているリアルタイムの道路状況や通行止め情報など雪に関するツイートを一元的に確認できるよう、北陸雪害対策技術センターのTwitterでリツイートを行った。

アンケート実施等による配信内容の検証では、ユーザーが求める情報としては、「道路情報」「除雪情報」「渋滞・混雑情報」に関するニーズが高いことが分かった。また、情報配信時に画像を添付(写真-5)することで、リツイート数が増加する傾向があり、よりユーザー間で拡散することが分かった。(図-3) 2017年度に北陸雪害対策技術センターが発信したツイートで最も反響があったのは道路雪害の緊急情報について発信したツイートで、インプレッション数(閲覧数)124,000、リツイート数511であった。

北陸雪害対策技術センターのTwitterのイベントでのPRや雪に関するツイートなどの効果もあり、Twitterの運用を始めた2015年度末はフォロワー数が156人であったが、

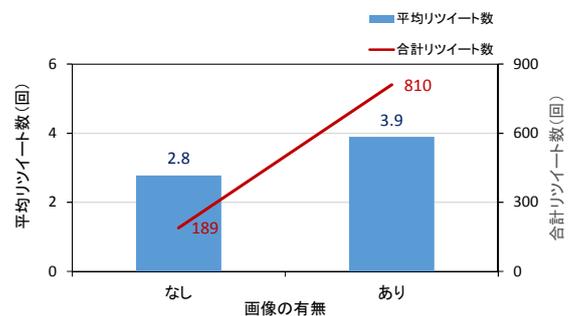


図-3 画像の有無によるリツイート数の比較

3. 広報活動の課題

北陸雪害対策技術センターで行っている広報について、一般の道路利用者を対象にWEB上でアンケート調査を行った。調査母数は1280である。

アンケートの結果を見ると、北陸雪害対策技術センターで行っている啓発ポスター、雪みち情報チラシ、「おしえて!雪ナビ」ホームページ、Twitterについてどれも認知度が低い結果となっているが、情報を認知した方は情報を検索しようとする意思があることから、一般の方が集まるイベントの場でのPRなどを行い認知度を上げていく事が今後の課題である(図-4)。

また、道路利用者向けに冬期道路情報提供への不満点の調査を行ったところ、「運転中に入手できる情報が少ない」という意見が突出する結果となった(図-5)。実際に大

雪となった事例では、道路利用者が自分の行き先の状況が分からないまま大雪の場所へ向かってしまい、結果進む事も戻る事も出来ない車両が多発し、立ち往生解消に非常に時間がかかることとなった。道路利用者が情報の無いまま交通障害の発生場所へ向かい立ち往生する事の無いよう、広域的な情報提供を行っていく事も今後の課題である。

調査項目		ポスター	チラシ	HP	Twitter
認知度	見たことがある	8%	5%	4%	4%
	見たことがない	74%	85%	89%	90%
情報検索	した、しようと思った		80%	84%	85%
	していない		20%	16%	15%

図-4 広報のアンケート結果

4. まとめ

近年、普段は雪の降らない少雪地域においても局所的な異常降雪が発生しており、道路利用者への冬期道路に関する意識啓発・情報提供の重要性は増している。

北陸雪害対策技術センターでは今後も全国の地整等との連携を図りながら、雪害対策に関する知見の収集に努め、より効果的な広報・情報提供について検討を進めていくものである。

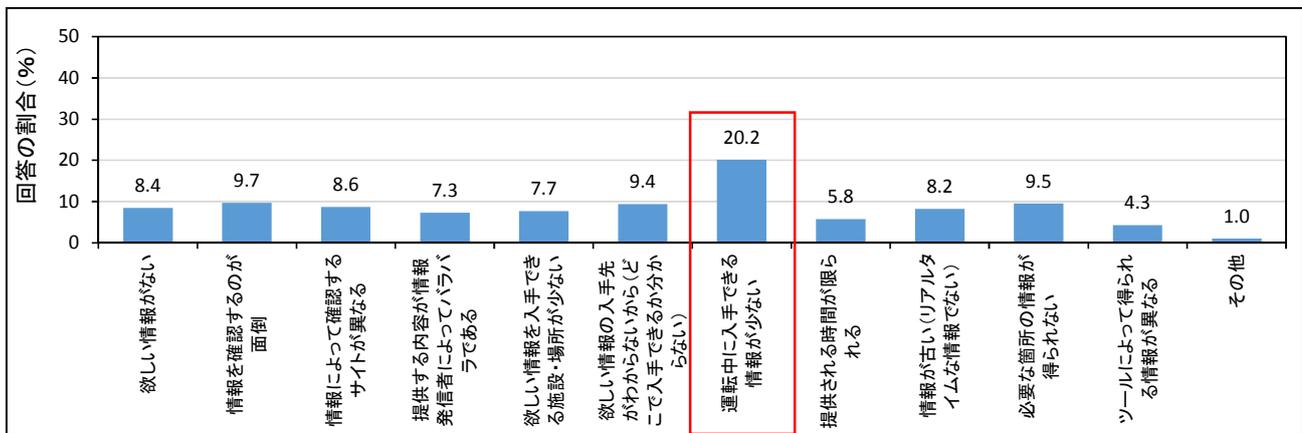


図-5 冬期道路情報提供に対する不満 アンケート結果